

【研究主題】

生きる力をはぐくむ家庭科教育

～生活につながる学びを求めて～

金沢市立長田中学校 古保 克美

1 研究のねらい

一人一人の子どもに「生きる力」を育成するためには、家庭分野でどのような資質や能力をはぐくむのか一層明確にし、何を教材・題材としてすすめたらよいかを考え授業を構想する必要がある。

(中等教育資料H15年9月号参照)

このことが、生きる力をはぐくむ新しい家庭科教育を象徴していると考えた。

また、本研究で生活につながる学びを意識して教材・題材を工夫することが、育てたい資質・能力に迫ると考えた。

研究を進めるにあたって、「新しい時代の学力作り授業作り-資質・能力を育てる中学校家庭分野」という文献から示唆をいただき、次のような、2つの目的にむかって研究を進めることとした。また、具体的に生活につながる学びを求めて2つの実践を行い、検証することにした。

目的1 生徒の興味・関心や「なぜそうなの、どうすればよいか」などの課題発見や課題解決に取り組む工夫

目的2 生徒の個性を生かしつつ、基礎的・基本的な内容を確実に定着させるとともに、生徒が「わかった」「できた」喜びを体験できる工夫

2 研究の方法

(1) 目的1のための実践

住生活における題材の工夫と教材開発

〔学習指導要領学習内容 A(4)〕

投げ込み教材の開発と工夫

学習を進める中で、物事を考えさせるときのヒントになるものやイメージをふくらませたりするために、授業の中で度々織り込んでいく教材として、「投げ込み教材」(以後このように明記する)を効果的に活用し、課題解決学習を行う。

授業実践からその効果を探る。

(2) 目的2のための実践

衣生活における題材の工夫と教材開発

〔学習指導要領学習内容 A(6)〕

コンピュータを活用した教材の開発と工夫

衣服製作において、つまずきや進捗の手助けとして、コンピュータを効果的に導入する方法を模索する。

授業実践からその効果を探る。

3 授業実践

実践1 小題材「気持ちよく住むためのキーワード」

1) 効果的な投げ込み教材の工夫

課題解決学習の導入部分で2つの投げ込み教材の活用を工夫した。授業展開の中で、生徒が意欲を持って授業に参加したり、課題追求へのきっかけを促し、次への学習に効果的に働くであろうと考えた。

ア 投げ込み教材

〔住宅広告の活用〕



図1 住宅広告を使つての学習の様子

イ 投げ込み教材

〔6つのキーワード〕例 コップとジュース



冷たいジュースを入れることでできた水滴を結露に見立てて学習をした。その他備長炭を使って脱臭効果など

実践2 小題材「コンピュータを活用した

ハーフパンツ製作」



作業のポイント

コンピュータを活用することで、作業の手順がわかり、自分の力で進むことができる。

作業の手順: 見たい作業をクリックし、動画の場面をだす。もう1度クリックで動画がスタートする。

4 成果と課題

教材、は、学習のヒントになったり、考えさせるためのイメージをふくらませることができ、課題解決学習に効果的に働くことができた。何よりも教科書や資料集にはない効果や魅力があり、生徒の興味・関心をひきだすことができた。IT教材「ハーフパンツの製作」はひとりひとりの基礎・基本の定着に大変有効であり、今までにない製作の楽しさを実感できたと思われる。

今後指導と評価の一体化を現実にするために、自己評価や学習プリントと一体化した評価について、今後深めて行きたい。今回開発した教材を多くの家庭科担当の先生に活用していただき、改良を重ねて行きたい。